（様式３）

令和３年度　金沢型学習スタイル実践推進事業　報告書

南小立野小学校	小学校教科推進校	教科（英語科）

１　研究の重点と具体的な取組

「言語活動の効果的な設定」と「単元のゴールを意識した単元構成」を重点とし、研究を進めた。授業では、進んでコミュニケーションを図りたいと児童が感じられる、本物のやりとりに近づけるために、活動や場の設定を工夫した。

低学年では、「聞くこと」を大切に、ビンゴやカルタなどの活動を行ってきた。

先生の言っている英語がわかるようになったよ。

わかった！
できた！

何回も聞いたら、言えるようになったよ。

中学年（３年生）の授業では、「友だちが喜ぶスマイルカードをおくろう」を単元のゴールとしたことで、児童の中で、カード作りに必要な形やアルファベットを揃えるやりとりに必要感が生まれた。発展的な学習活動として、外国の子どもたちとも作ったカードを交流した。児童にとって、この活動は大変わくわくするものであり、他国の文化を知る一端となった。

はやく自分のカードを作りたいな。

やって
みよう！

欲しい色の形を持っているかな。

また、高学年（６年生）の授業では、「小学校の思い出を中学校で出逢う友達と伝え合おう」を単元のゴールとし、他校の児童に、自分の小学校の思い出を、これまで学習してきた表現をもとにして伝える活動を設定した。やりとりを繰り返す中で、より相手に伝わるようにするにはどんな内容が必要かなど、相手を意識した活動にすることができた。

言いたいことは伝わるかな。

自分の力を
試そう！

相手がもっと知りたいことは何だろう。

２　取組の検証

児童英語アンケートでは、低学年も高学年も「英語が好き」という項目において肯定的回答が８３．４％と高かった。また、「英語の授業は楽しい」の項目においても、肯定的回答が８９．４％と高かった。英語の授業で楽しいことの理由として、「英語でゲームをしたり、歌ったりすること」「英語で友だちと会話をすること」「日本と外国の違いを知ること」「外国のことについて学ぶこと」が多く挙げられていた。また、「英語が使えるようになりたい」と前向きに学習に取り組んでいる児童が９１．８％と多くいることが分かった。記述アンケートの結果から、これから授業でしてみたいことでは、「リモートで外国の人と一緒に学びたい」「他の学校の人と話したい」「英語でスピーチをしたい」「英語の歌を歌いたい」などが挙げられ、児童は学んだことを生かす場、自分の力を試す場を求めているのだと感じ取ることができる。また、将来英語は役に立つだろうと考えている児童も９１．４％と多い。

低学年集計結果　（1～3 年生）

	そう思う	どちらかというとそう思う	どちらかというとそう思わない	そう思わない
英語は好き	60.0	25.5	5.3	9.2
英語の授業は楽しい	70.0	21.1	3.4	5.5
英語を使えるようになりたい	77.4	14.2	3.4	5.0

高学年集計結果　（4～6年生）

	そう思う	どちらかというとそう思う	どちらかというとそう思わない	そう思わない
英語は好き	41.5	39.8	13.5	5.2
英語の授業は楽しい	57.0	30.6	9.3	3.1
英語を使えるようになりたい	72.9	18.9	3.4	4.8
将来英語は役に立つと思う	75.9	15.5	5.5	3.1

教員アンケートからは、「聞くことを大切にできた」「単元ゴールを児童と共有することで、相手や目的を意識した学習活動ができた」「学んだことを生かす場があるような学習ゴールの設定ができた」と重点を意識した指導ができたという意見があがってきた。

３　成果と課題

研究の成果として、児童にとって本物のやりとりこそが、学びの意欲につながることが明確になった。課題として残ったのは、今まで以上に児童の必要感から授業を展開することである。今年度取り組んできた「言語活動の効果的な設定」と「単元のゴールを意識した単元構成」をさらに追求するために、児童が「Try＆Error」（やってみて、できないことに気づき、思考する）を積み重ねることができる学習活動を工夫していきたい。そうすることで、学びを自分のものとし、実際に使うことのできる力となっていくと考える。今後は、英語科で得た成果を他教科にも広げていきたい。